



子供たちの幸せを願って

大隅教育事務所長 山元 卓也

昨年6月、国は「持続可能な社会の創り手」「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」を掲げて教育振興基本計画を示しました。本県においても国の計画を参酌し、令和6年度からの第4期「鹿児島県教育振興基本計画」を策定しました。基本目標に「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」を掲げており、ウェルビーイングの向上への期待が込められているように思うところです。

ウェルビーイングという言葉は「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む」とされています。私たちが、目の前にいる子供たちの今も、そしてこれからの未来も幸せであってほしいと願いながら日々の教育活動に取り組む姿と重なるのではないのでしょうか。

「人がどのような時に『幸せ』を感じるのか。」それを明らかにするために行われた研究において、幸福感と深い相関関係がある次の4つの因子が導き出されています。(2023 前野隆司 慶應義塾大学)

- ①「やってみよう」因子（自己実現と成長の因子）
- ②「ありがとう」因子（つながりと感謝の因子）
- ③「なんとかなる」因子（前向きと楽観の因子）
- ④「ありのままに」因子（独立と自分らしさの因子）

これらの4つの因子を見ると、学校においては、子供が自分のよさや強みを見つけ「幸福」を感じやすくなる、そんな環境をつくるのが重要なことだと改めて思うとともに、最終的に「幸せ」は自分自身で創り出していくものだと思うことでした。

「幸せになれる子」を育てるには、どんな境遇でも自ら乗り越え、切り拓いて行けるように、何もかもただ与えるだけでなく自立を促す働きかけも必要です。自ら考え、自ら判断し、自ら行動できるように、子供を取り巻く周囲の者が支え導いていってこそ育つのではないかと思います。将来の予測が困難な時代と言われる今だからこそ、私たちはそのような子供たちを育てていかなければなりません。これからも学校が中核となって、誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して教育活動に取り組んでいけるよう、教育事務所としても努めていきたいと思えます。

「学びの羅針盤」「大隅学力向上リーフレット」の活用

思うような授業を展開できずに悩んでいませんか？

～目指す授業像を明確にするために～

- 1 「学びの羅針盤」を読み、思い描いた姿を書き込む。
- 2 書き込んだ内容を全職員で交流する。
- 3 交流を振り返り、目指す授業像を明確にする。

◎ 目指す授業像

・「学び合い」の場の設定
・試行錯誤しながら自力解決する場
・互いの考えの共通点や相違点を整理し、結論を導き出す場【錦江町立池田小学校 職員研修資料の抜粋】

○「〇〇がわかった!」「あー そういうことだったのか」という氣氛になる授業(ふり返りを大切に)
○子供たちとつくりあげる(子供が主体)授業
○「かんぱんてい」と学習(取組 宿題)の成果わかる授業
○見直し、教員で流石の確認をして進める授業
【錦江町立大原小学校 職員研修資料の抜粋】

～目指す授業像を実現するために～

- 1 「大隅学力向上リーフレット」を読む。
- 2 各過程で表出させたい子供の姿を想定する。
- 3 リーフレットに示した働き掛けを参考にして授業を行う。

めあて

子供が自ら問いを発見する
「どうしてこうなるのかな」「それはどういうことかな」

- 子供が短時間で問いを立てるための工夫
- 子供が問いを立てるための場の設定
・前時と本時の学習内容の比較
・事象提示による比較
・学習計画表や前時からの流れの確認
・子供の解決したい思いや願いを高める体験等
- 子供が問いを立てるための発問
・「前の学習とどこが違うかな」
・「AとBを比べてどこが違うかな」
・「〇〇さんはどんなものをつくりたいかな」
・「今日は、何をやる予定だったかな」(学習計画表の確認)
- まとめと整合性のあるめあての設定
・可能な限り、疑問形で設定すること

令和6年度大隅学力向上リーフレット(一部抜粋)

【ポイント】

- 1 子供と目指す授業像を共有し、子供の学び方も向上していくことが大切です。
- 2 学年や教科等を超えて、職員同士で授業における子供の姿を語り合うことが大切です。



魅力ある学校づくり

魅力ある学校づくりでは、支援を要する子供には個別支援を継続し、不登校ではない児童生徒には集団支援をして、不登校の未然防止に取り組みます。

魅力ある学校づくりに取り組んだ学校では、新規不登校の数が減ることが実証されています。

【魅力ある学校づくりのキーワード・ポイント】

- ① 「発達支持的生徒指導」と「未然防止」を意識する。
- ② 不登校を「継続数」と「新規数」で考える。
- ③ 「意識調査」をもとに教育活動を振り返る。
- ④ 年3回のPDCAサイクルで実践する。
- ⑤ 授業に内在化する生徒指導を意識する。

今の教育活動が、子供たちにとって本当に魅力的なものになっているか、「何が子供たちを学校に來させているのか」を考え、外の世界には無い学校の魅力を構築し、不登校を減らしていきましょう！



「運動大好き“かごしまっ子”」の育成

生涯にわたって主体的に心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することができる児童生徒を育成するために、学校・家庭・地域が連携して、「運動好きな子どもを育てる」ことが大切です。

【児童生徒が意欲的に運動に取り組むためのポイント】

- ① 運動の楽しさを味わう。
 - ・単元全体の計画が分かり、何が学べるか見通しをもてる。
 - ・課題に応じて運動や場、ルール等を選択・工夫できる。
 - ・十分に運動する中で学び合い、「分かった・できた」を実感する。
- ② 体力・運動能力向上のよさを感じる。
 - ・自分の課題や体力向上の効果等を知り、意欲を高める。
 - ・目標設定→継続した運動→測定により、変容を実感する。

児童生徒自らが「運動したい」と思えるような活動や環境づくりを工夫し、様々な運動や運動遊びに取り組ませていきましょう。



地域で支える家庭教育推進事業「家庭教育学級長等研修会(大隅会場)」

6月19日(水)に家庭教育学級長等研修会が開催されました。

本研修会は、家庭教育学級における課題を明らかにし、その解決策等について意見交換や事例発表等を行い、家庭教育学級のより一層の充実を図るとともに、家庭の教育力の向上を目的としています。

講義・演習では、県教育庁社会教育課から家庭教育学級の意義や人権教育について丁寧で分かりやすい説明がありました。

実践事例発表では、大崎町立持留小学校、鹿屋市立花岡中学校がそれぞれの特徴ある活動について発表しました。持留小学校は「もちっこ夏祭り」や「もちっこウォークラリー」、花岡中学校は「会員の特技を生かした講座開設」や「おさがりプロジェクト」等、保護者同士の触れ合いや、つながりを大切にする活動が展開され、活動を通して子育てに関わる保護者同士、保護者と教員の絆を深めていることが分かりました。

グループ協議では「魅力ある家庭教育学級の運営」について活発な協議が行われました。

家庭教育は、すべての教育の出発点です。また、家庭教育は、子供が基本的な生活習慣、他人に対する思いやりや善悪の判断などを身に付ける上で重要な役割を担うものです。現在、地域とのつながりの希薄化や、保護者が身近な人から子育てを学び、助け合う機会の減少など、子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化しています。すべての保護者が安心して子育てや家庭教育を行うことができるよう、保護者に寄り添った支援、学習機会の設定等、活動の充実をお願いします。



【鹿屋市立花岡中学校】



通級指導教室

大隅地区では、ここ4年間で特別支援学級78学級増、在籍児童生徒数462人増と、特別支援教育に対するニーズが高まっています。誰一人取り残さない、多様なニーズに応える学びの場の充実の一つとして通級指導教室の設置にも努めています。

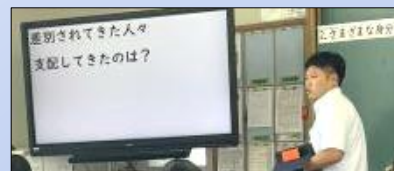
・通級指導教室がR6年度に4学級新設され、地区全体で15学級となりました。加えてモデル事業として、鹿屋市立鹿屋小学校に「巡回型通級指導教室」が開設されました。鹿屋小を拠点に7校への巡回指導を行います。今後、通級指導のニーズに応えやすくなるとともに、連携による各通級指導教室の更なる充実が期待されています。



地区人権教育授業実践研修会

6月5日(水)に鹿屋市立上小原中学校で標記研修会を開催しました。

当日は、参加型学習を行ったり、人権教育担当者としての課題等を共有したりして、人権教育の一層の推進・充実を図るための具体的な方策について認識を深めました。また、同校の中島紀彦教諭に、社会科の教科書記述に基づく同和問題(部落問題)に関する授業を提供していただきました。研修会後には参加者の「学習内容の深め方・指導の在り方など、自身の授業を見直すよい機会となった」という感想も見られ、人権同和教育に関する学習指導の在り方を見つめ直すことができました。今後も、人権教育に関する多様な研修会に参加いただき、人権尊重の視点に立つ学校づくりの取組が更に推進されることを期待します。



【鹿屋市立上小原中学校】

地区小・中・義務教育学校長研修会

7月26日(金)に第2回大隅地区小・中・義務教育学校長研修会を開催しました。

本研修会で「子供たちが『ICTを使って学びを深めた』と実感できる活用とは」というテーマでパネルディスカッション



を行いました。まず、県教育庁高校教育課 中村太一主任指導主事から本県の取組についての基調提案がなされました。先進的な取組を行っている垂水小 北川政人校長、R6～R7「学校における教育の情報化」県研究協力校である田代中 土岐邦寿校長、また、ICTを業務改善に結び付けて取り組もうとしている志布志中 徳重正宏校長、校長会代表として寿北小 伊藤太校長を加え、パネルディスカッションを進めました。最後に、県教育庁義務教育課 水島淳課長兼 ICT 推進監からの御指導をいただきながら、2学期からの取組を模索しました。

【パネルディスカッションにおける感想等】

○校長先生方の取組が大変参考になりました。予習したことを授業で取り扱うことで、協働的な学びがより充実し、とても有効だと思います。

○今後、ICTを業務改善の手段として効果的な利活用に努めていきたいと思っています。

熱中症対策

秋の運動会・体育大会のシーズンを迎えます。2学期の大きな行事に向けて練習にも熱が入るのではないのでしょうか。

9月はまだまだ残暑が厳しい季節です。食や睡眠に気を配り、疲れを残さないように指導していただきたいです。

熱中症に注意！！

暑さ指数 33℃を超えたら「危険ランク」

お知らせ

台風10号接近のため中止しました「第2回大隅地区臨時的任用教員等研修会」の代替研修会を開催します。

なお、本研修会は希望者の参加となります。希望者はQRコードを用いて申し込んでください。
※詳しくは裏面をご覧ください。

令和6年度第2回大隅地区臨時的任用教員等研修会（9月21日代替実施 ※希望研修）



地区研究協力校等について

【地区研究協力校】

市町名	学校名	教科・領域等	委嘱期間	研究公開（発表会）
垂水市	垂水小学校	小学校高学年教科担任制実践研究(算数科)	R5～R6	令和6年7月4日(木)
志布志市	森山小学校	へき地・小規模校教育(特別活動)	R5～R6	令和6年9月26日(木)
大崎町	大崎小学校	国語科	R5～R6	令和6年10月29日(火)
鹿屋市	細山田中学校	体力向上	R5～R6	令和6年11月12日(火)
鹿屋市	高隈小学校	へき地・小規模校教育(算数科)	R5～R6	令和6年11月19日(火)
鹿屋市	輝北小学校	指導法改善(国語科)	R6～R7	令和7年度
志布志市	松山中学校	学力向上	R6～R7	〃
大崎町	大崎中学校	特別の教科 道徳	R6～R7	〃
錦江町	田代中学校	学校における教育の情報化	R6～R7	〃

【県研究協力校】

市町名	学校名	教科・領域等	委嘱期間	研究公開（発表会）
志布志市	伊崎田中学校	「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業	R5～R6	令和6年9月19日(木)
曾於市	末吉小学校	学びの变革	R5～R6	令和7年2月13日(木)
肝付町	高山中学校	学びの变革	R5～R6	
錦江町	田代中学校	学校における教育の情報化	R6～R7	令和7年度

【「小学校高学年教科担任制実践研究」モデル校】

市町名	学校名	委嘱期間	研究成果発表
垂水市	垂水小学校(兼務校:水之上小学校)	R5～R6	令和6年7月4日(木)
志布志市	伊崎田小学校(兼務校:山重小学校, 麴小学校)	R5～R6	令和7年2月12日(水)

【令和6・7年度「小学校高学年教科担任制(体育科)実践研究」モデル校】

市町名	学校名	委嘱期間
鹿屋市	上小原小学校(兼務校:串良小学校, 細山田小学校)	R6～R7

【令和6年度子どもの人権プロジェクト推進校】(計2校)

市町名	学校名	委嘱期間
鹿屋市	上小原中学校	R6
垂水市	水之上小学校	R6

